



襷 (たすき) をつなげる

教頭 六 沢 純

今年の箱根駅伝は、駒澤大学が最終10区で大逆転し、13年ぶりの総合優勝を果たして幕を閉じました。最後の最後まで決して諦めることなく走り続ける姿、そして、ゴールを目指してチームで襷をつなげる姿は、見ている者に大きな感動を与えてくれました。

2月は、学校でも「襷をつなげる」季節です。3月の卒業式を前に、桜木中学校の伝統という襷が、3年生から1・2年生へと引き継がれます。

先日、放送によって行われた生徒総会では、生徒会の本部役員から、これまでの活動報告とこれからの活動方針の説明がありました。「自分たちの手で創り上げる学校」という桜木中学校の良き伝統が、先輩から後輩へと確実に引き継がれ、生徒会活動や委員会活動など、学校の主役が1・2年生へと移り変わってきていることを実感しました。

襷を渡す側の3年生は、進路選択の真ただ中です。毎朝、始業前に登校し、教室で黙々と学習に励む生徒が多数います。3年生の昇降口前の掲示板には大きな絵馬が飾られ、それぞれの夢の実現に向けた力強いメッセージが書き込まれています。先月下旬に行われた私立高校入試で見事合格を果たし、一足早く進路先を決定した生徒もいます。多くの生徒がこれから受験本番を迎えますが、箱根駅伝で優勝を果たした駒澤大学のように、最後まで諦めることなく頑張ってもらいたいと思います。



昇降口に掲示された絵馬

一方、襷を受け取る側の1・2年生は、まもなく卒業していく3年生に感謝の気持ちを伝えようとしています。来月4日に行われる予定の3年生を送る会の準備が本格的に始まりました。コロナ禍ということもあり、できることに制限がある中、一生懸命準備に取り組んでいる姿がとても頼もしく感じます。また、校舎北側のさくら並木通り沿いのフェンスには、これから受験本番を迎える3年生へ向けて、生徒が考えた応援メッセージが掲示されました。ここまで懸命に走り続けてきた3年生の襷を、1・2年生がしっかりと受け継いでくれることを感じさせてくれます。



フェンスに掲示されたメッセージ

2月3日は、立春です。まだまだ寒い日が続きますが、暦の上では、季節が冬から春へと襷がつながれる季節となりました。いよいよ年度末を迎え、生徒たちの意識の中には、卒業や進級の時期を迎えるのだという自覚が芽生えてきました。新型コロナウイルス感染症は、依然として予断を許さない状況が続いています。ぜひ、健康に留意して、新しい学年を迎える準備をしてもらいたいと思います。